

## ロシアがウクライナで行なっていること、かつて日本で実際に行ったこと

加川結花・看護師

木村先生が「幸せなら手をたたこう」という国民的に有名な曲を作られたことに驚くとともに、その背景に旧約聖書が関わっていたことにも非常に感銘を受けました。

講義の中で最も印象深かったお話は、現在メディアで流れない日はないロシアとウクライナの戦争問題と、日本との関係です。

「かつて日本では天皇陛下の命のもと、日本がやっていることは全て良いことという洗脳があった」「敗戦後に、国として軍備を持たない選択をし、軍備を持つ必要がないようにいくのが、これからの日本である」

このお話は、とても心に響きました。

一方で今ロシアがウクライナに対して行っていることは、かつて日本が実際に行ったことでもあり、「戦時中の日本が行った政治に、正義はなかった」というお話には心を抉られるような衝撃と、絶対に目を背けてはならない事実であることを認識しました。

恥ずかしいことに、私自身も基礎教育やこれまでの人生の中で、フィリピン・マニラで行われた虐殺行為について概要を知る機会はなく、今回の講義をお聞きするまで全く意識していなかったように思います。メディアで流れる情報や映像に対して、身近で交わされる会話では、誰もが「ロシアは、ひどいね」と話しています。

木村先生のお話をお聞きし、「あまりに無責任な発言であった」「日本人として歴史を理解した上で自らを省みて考えていかなければならない問題」と強く感じました。

BIOETHICS（生命倫理）に関するお話は、私が看護師として医療機関で勤務する上でも非常に興味深く重要な課題です。「医療は患者さんと医療提供者とが互いの信頼関係に基づき協働して作り上げていくものであり、患者さんに主体的に参加していただくことが必要」というお言葉は、職場のスタッフ間にも改めて周知していかなければならないと思いました。

\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*

**木村利人先生から：**

「日本人として歴史を理解した上で自らを省みて考えていかなければならない問題だと強く感じました」と僕のメッセージを正しく受け止めていただき感謝です！

筆舌に尽くし難い戦争の悲劇を再び決して行わないと誓って成立した日本の平和憲法を守り抜くことが何よりも大事です。

戦争と軍備拡大に反対する精神を国の内外に広げる使命を私たちは持っています。

かつての日本軍がアジア近隣諸国と日本国内で行った過去の悲惨な歴史的事実を正確に認識しましょう。

その深い反省の中から、世代をつなげて「し・あ・わ・せ」の新しい未来を態度に示しつつ、グローバルな平和への責任を担って生きて行きましょう。

素晴らしいレポートに御礼申し上げます！